'76 6
No. 49
昭和51年6月1日発行
発行 横越村役場

広報 よこごし

おもな内容

1. 水を大切に（1P）
2. 統合小学校工式挙行（2P）
3. 第4回環境週間（2P）
4. 水の事故をなくそう（2P）
5. 各分館活動始まる（3P）
6. よみがえった二本木グランド（3P）
7. おそろしい日本脳炎（3P）
8. 高令者大学はじまる（4P）

（小杉　長瀬平太郎氏 庭園）

見直そう考え直そう水の価値

水を大切に使いましょう

水道は国民の健康で文化的な日常生活を支える最も重要な施設の一つです。また、社会的、経済的な諸活動を支える上でもなくてはならない施設なのです。しかし近年、私たちをとりまく環境の変化は極めて厳しいものがあり、水需要の増大に対応するため新規水源の確保、水道事業経営の健全化等困難な問題が生じています。私たちが生きていくために日常なにげなくつかっている水道の水、その需要水量が本村においても宅地造成などでふえる一方です。大都市では一人一日三五六㍑、本村では一八八㍑前後の水を使用しています。そして水道料金はガス料金、電気料金に比較して二倍～三・七倍も安い料金ですからガスや電気はせつやくしても水道はあまり関心がありません。しかしこの水も限られた水資源を計画的に、有効に使っていかないと、数年後には、水ききんが起るともいわれています。

特に水道は、水源から水を引いて色々な施設で科学処理をし、きれいに消毒したものを送っていますから、高い経費をかけて、水をつくっているといってもよいでしょう。

ですから、一人一人が大切に使って、大勢の人から喜んでもらうようにしなければなりません。そこで国（厚生省）では国民福祉の向上と私達の生活と健康をまもるために水道の果たす重要性を再認識してもらい、あわせて大勢の皆さんから水道に親しみと、関心をもってもらうため、第十八回水道週間を六月上旬から実施しています。

そして水道事業が健全に発展できるよう、みなさんから協力を願います。

1人1日あたり使用水量188ℓ

188ℓ＝18ℓのバケツ 約10はい分

（1升びん10本分です）

1世帯1カ月の水道料金は1,275円

ガス料金、電気料金は約2～3.7倍の料金比較です。（家計費の0.4～0.5%です）

横丁橋

公民館の活用する度数は距離に逆比例するといわれております。家から近いところにあれば、利用する気も起りますが、遠くになると足も遠のきがちになるということでしょう。特に公民館の催しはどうしても夜間や休日が多くなるのでそういう感じがすると思います。そういう意味では、公民館の本館よりも各地区分館が利用され易いことになるのでしょう。

けれども、今までは、各地区分館は小学校に設置されてあり、利用に不都合な点が多くあったことと思います。

この四月から小学校の学校統合に伴い旧学校が廃止されその跡地が純粋に公民館分館として利用されることになりました。既に、分館として利用する部分もきまり各部屋の整備も出来上りました。分館長、主事、管理人さん方もきまり新しく分館活動を発足させるために張り切っておられます。新しく体勢を整えた分館活動に大きな期待を寄せる次第です。

本来住民と密着した公民館活動を実施するためには分館の距離が一番適当なのでしょう。本館では対象人員が多すぎたり、距離が遠いために、集るに不便であったり、特におとしよりや、小さい子供達を対象にした催しなどは開催が困難になります。その点、分館ですと集るにも都合がよく、みんな顔見知りの方々が多いので、仲間意識が強調されるし、同じ仕事をするにも都合がよいことになりましょう。住民の要望にこたえる活動が楽にできるでしょう。然し、そのためには人的体制と施設々備の充実をはかっていかなければなりません。

不十分とはいえながら分館の事門の建物も借りつ、活動の中心にたられる方々もきまりました。今後の分館活動の充実発展を祈ってよみます。